

タンザニア・ポレポレクラブ

2026年度 事業計画書



タンザニア・ポレポレクラブ

〒182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(E-mail) pole2club@polepoleclub.jp
(HP) <https://polepoleclub.jp/>

2026年度 事業計画



キリマンジャロ東南山麓キモチ地区の新たな植林地。新規植林地の多くはこのように表土が流され、従来と同じ植林手法は通用しなくなっている。

【海外事業】

概況

タンザニアでは 2026 年度も、引き続き昨年の総選挙前後の混乱を引きずった不安定な政情が続くと思われま。選挙後にサミア大統領が「真実を明らかにする」として設置した政府調査委員会は 4 月 23 日に調査報告書を大統領に提出しましたが、調査委員会の独立性に対する疑問や、政府寄りの結論で、真相究明より「体制擁護」に傾いているなどの批判がされています。最大野党の党首は反逆罪の容疑で逮捕、拘留されたままであり、政府の対応次第では、国際的にも大きく孤立していく可能性があります。

一方、引き続き円安、米国・イスラエルのイラン攻撃による現地での急激な物価上昇や航空運賃の上昇など、現地活動を進めていく上での外部環境もより厳しさを増しています。予算的にも前年度まで得られていた助成金が区切りを迎えたため、事業支出を絞らざる得なくなっています。

このように事業環境は厳しいものとなっていますが、植林では新規植林地で多様な樹種を用いた社会生活林形成の新たな取り組みが始まっており、「みつばちの森づくり」にも一層力を入れていくこととなります。これらの取り組みは、今後のキリマンジャロ山での植林の方向性を大きく変えていく可能性があり、現場に一層密着した活動体制がのぞまれています。

こうしたことから、当会は現場入りの期間を従来の最大 2 倍程度まで増やす方向で検討しています。カウンターパートの TEACA、HAKIMAMA に密着し、新たな取り組みを確実に進展させ、具体的成果と結果に結び付けていきたいと考えています。

2026 年度は世界情勢同様、さまざまな現地での取り組みが質的な変化、転換点を迎える一年になりそうです。そうした中でも目指す方向を見失うことなく、ぶれることなく、活動に取り組んでまいります。

1. 世界遺産キリマンジャロ山におけるバッファゾーンの森（HMFS）への国立公園拡大問題の解決

●課題1： 問題解決に向けた取り組み体制の強化

2025年度は総選挙とそれと前後する国内情勢の不安定から、タンザニアの弁護士会 Tanganyika Law Society（TLS）との接触ができなかった。TLSは2024年、山麓住民からキリマンジャロ国立公園拡張による問題を提起されていたが、選挙に前後して発生した人権問題などへの対応でこの問題提起への対応が止まっている。2026年度はタンザニアの国内情勢、TLSの状況を見ながら、再度の接触の機会を探ることとする。

●課題2： HAKIMAMAの実行体制強化

国立公園拡大の問題に取り組んでいるHAKIMAMAは、一部のリーダーに負荷が集中している状況を2025年度に解決することができなかった。さらにこれに体調不良が重なってきており、体制の見直しはもはや待ったなしの状況となっている。このためHAKIMAMA構成村の村長らと協議し、活動実行体制を再編する。基本的に関係村から責任をもって実働部隊を出してもらい、実行されない場合はHAKIMAMAからの除名も視野に入れる。また、一部活動はTEACAとの協同もしくは委託することも考慮する。

2. 植 林

●課題1： 社会生活林形成植林

2026年度より、山麓住民の生活を支えていく社会生活林形成のための植林を本格化させる。社会生活林は、国立公園に取り込まれたHMFSの、一部機能代替を目指すものである。ただし、裸地化が進み岩ばかりとなった尾根での植林が中心となるため、適応可能な樹種の判断が非常に難しくなっている。2025年度に先行植林した樹種の活着状況を見極めるとともに、タンザニア森林研究所（Tanzania Forestry Research Institute：TAFORI）とも協議し樹種選定を行っていくこととする。

植林地：・キモチ地区（2か所）、計900本
・キルアブンジョー地区、1,500本

●課題2： 「みつばちの森づくり」植林（1,000本）

2025年度の大雨期植林に苗木が間に合わず、植林できなかったHAKIMAMAによる植林。蜜源樹による「みつばちの森づくり」の一環として取り組むものであり、キリマンジャロ山でのモデル林造成を目指した継続植林。

植林地：・キボシヨ地区、1,000本

●課題3： キボシヨ地区に新規苗畑を開設

現在HAKIMAMAの運営する苗畑はキリマンジャロ東山麓にあるLole苗畑1か所のみとなっている。今後南山麓での植林をカバーしていくため、新規に苗畑1か所を開設する。現在南山麓ではキボシヨ地区で「みつばちの森」のモデル林造成に取り組んでおり、同地区に育苗規模3千本の苗畑を開設することとする。

●課題4： 植林実施時期、実施体制の見直し

2025年度は育苗遅れから強制的に植林時期がずれ、農繁期と植林が完全に重なる事態は避けられたが、問題の根本は解決されることなく残っている。とくに今後の社会生活林形成植林では、植林対象地の荒廃がひどく、植林作業の負担がかなり大きくなる。このため、大雨期前の植林地の造成作業、草刈り作業は通常の植林作業から分離し、この目的のために村で特別チームを編成する方法に切り替える。また、植林直前の植え穴掘りも、同様に植林作業から分離し、特別チームで対応する。

●課題5： TEACA の委員会体制強化

TEACA も指導層の業務負荷が非常に高く、日常的な行動計画の策定、調整を行うコーディネーターが必要となっている。また、高い負荷ゆえに現在の活動以外の課題に取り組みことができなくなっている。そこで特定 이슈 に特化し課題解決に取り組むプロジェクト委員会の設置に取り組む。2025 年度に寄付（Harambee）獲得のための委員会を設置したが、その委員会をそのまま使うか、新たに組織するかは、TEACA と協議し決めることとする。2026 年度の課題とするかは未定ながら、コーディネーターの人選も、当該委員会での取り組み課題としたい。

3. 養 蜂

●課題1： 害虫対策養蜂箱のさらなる改良

完成したばかりの害虫（※）対策済養蜂箱であるが、新たに発生した養蜂箱内部のカビ問題への対策が必要となっている。このため養蜂箱のさらなる改良に取り組み、問題の解決を図る。

※スモール・ハイブ・ビートル（*Aethina tumida*）

●課題2： キャッチボックスの作成

養蜂では営巣率の向上が欠かせないが、設置した養蜂箱にミツバチが入るのを待つだけでは営巣率の向上には限界がある。このためミツバチの群れを積極的に捕獲するキャッチボックスが必要になる。今後キリマンジャロ山で設置拡大を目指している害虫対策済改良養蜂箱にはこのキャッチボックスがなく、その設計、製作を行う。2026 年度中に 5 箱を完成させ、フィールドに設置する（結果が確認できるのは 2027 年度）。

●課題3： 群れ育成の強化

養蜂の採蜜量は群れの規模にかかっている。営巣中のミツバチをいかに強群に仕立てられるかで採蜜量が大きく左右されることから、給餌の強化に取り組む。現在設置している養蜂箱には給餌器がなく、定期的な給餌が困難となっており、給餌器の開発に取り組む。

●課題4： 「みつばちの森」モデル林地への養蜂拡大

植林を進めている「みつばちの森」であるが、2026 年度にキボシヨで取り組んでいるモデル林地に養蜂箱を初投入する。植えた蜜源樹が花を咲かせるのはまだ先であるが、3 箱程度を試験導入し、養蜂実施上の問題点の洗い出し、管理体制の見当に着手することとする。養蜂箱の設置にあたっては、可能であればタンガ州の養蜂グループ Mamboa から専門家を招き、その助言を得られるようにしたい。

4. 改良カマド

●課題1： 新規に 25 基を設置

2026 年度は予算上の制約から、新規設置はテマ村ないしキディア村での 25 基設置にとどめる。改良カマドについては、米国・イスラエルのイラン攻撃によるタンザニアでの資材および資材運搬費高騰の影響をもっとも強く受けると思われ、その動向を見極める必要も出ている。

●課題2： 代替炭事業での助成申請

土砂崩れによる施設および設備の損壊などにより、現在遊休となっている非森林資源利用による代替炭製造設備の再稼働を引き続き目指す。このため Tanzania Forest Fund (TaFF) への助成申請を行う。また、改良カマドはこの代替炭の使用が可能であることから、申請にあたって改良カマドの設置をあわせて盛り込めるかを検討する。（TaFF への事業申請は 2026 年度であるが、審査結果が出るのは 2027 年度）。

5. 裁縫教室

●課題1： 新入生の確保

これまで新入生確保のためかなりの手を尽くしてきたが、思うような結果に結び付いていない。2026年度も、前年度に開始した半年毎の生徒募集、学期にこだわらない柔軟な生徒受け入れ体制とともに、遠隔地を含むさらなる広報先の確保、裁縫教室のパンフレット作成、TEACAのWEBサイトを通じた発信など、新たな広報方法、手段を講じていくこととする。

●課題2： 裁縫教室運営の全面支援

昨年度まで当会は裁縫教室の教師人件費の支援をしていたが、生徒の確保難から財政的に運営継続が困難となっており、2026年度は運営費全般への支援を行う。ただし、これを今後も継続することは当会としても難しく、裁縫教室の今後について2、3年以内に継続の是非も含めた判断が必要となっている。

6. 診療所支援

●課題： 医師用住宅建設支援

テマ診療所に医師が常駐できるよう、医師用住宅の建設について建設資材を引き続き支援する。なお、同診療所の管轄エリアで尿路感染症が多い原因についても、引き続き医師と連携し原因を探っていくこととする。

7. 学校への文具支援

●課題

文具支援は、勉学に必須の筆記用具等に窮する生徒たちへの支援として、毎年キリマンジャロ山麓の学校から1校を選び実施しているが、同時に地域での植林活動や育苗活動への取り組みに対する感謝の意味も込められている。このことから、支援先はこうした取り組みが行われている地域、学校から選んでいる。2026年度は、昨年苗畑を立ち上げたキディア中学校への継続支援、もしくは2026年度に新たに苗畑を立ち上げる予定のキボシヨ地区から小学校を選んで支援を実施する。

8. その他

●課題

TEACAの取り組みの海外における認知向上に加え、収入基盤強化を目指し、日本以外からの事業視察、ホームステイの受け入れに向けた取り組みを行う。このためモシの町のホテル等に広報を行い、アレンジ可能なオプションとして加えることができないかを検討してもらう。

【国内事業】

1. ニュースレター発行

●課題：

引き続きニュースレターは最低年2回の発行とし、可能であれば3回発行を目指す。年1回の現地からのハガキによる活動状況報告も継続する。

2. インターネットによる活動報告会開催

●課題：

Zoom等を利用したインターネット活動報告会を2026年度も継続実施する。また、今後ある程度の人数での農村滞在等も検討しており、実行に移す場合は、事前準備や参加者交流の場としてのインターネット事前研修会を考えている。

3. 現地事業視察、ホームステイ受け入れ

●課題：

2026年度も引き続き現地プロジェクト視察、農村滞在（ホームステイ）の受け入れを行う。ただしこれまでとは異なり、1か月程度の長期滞在型での受け入れを試みることにし、今後の可能性を探る。

4. 企業との関係づくり

●課題：

日本とタンザニアのロータリークラブによる、キリマンジャロ山での共同植林プロジェクトの実現に向け、引き続き両ロータリークラブへの協力を行う。プロジェクトは2026年6月から開始の内容となっており、米国のロータリークラブ本部での事業採択判断は最終段階まで進んでいる。本事業は植林の実行を当会、TEACAがサポートする形で行うが、採択された場合も、6月の開始に間に合わない場合は、翌年度まで持ち越しとなる旨をすでに伝えてある。

5. ホームページでの決済システム見直し、物販サイトの立ち上げ

●課題1： 独自決済システム構築

この2年間手を付けられずにいるが、事務局のみでの対応は非常に厳しく、専門知識を持った方の助けがないと実現ができない。コストをかける余裕がなく、引き続きホームページ等でボランティアで協力できる方の募集を続ける。

●課題2： 物販サイトの立ち上げ

当会ホームページ内でのECサイトの立ち上げは上記の課題1と連動しており、システムに詳しい方の助力に頼らざるを得ない。こちらもホームページ等でのボランティア募集を継続する。

6. 事務局ボランティアの募集

●課題：

現地入りが長期化しており、コンスタントなボランティア受け入れが難しくなっている。ホームページ等での直接的な募集という形にこだわらず、茶話会、帰国報告会などを開催し、当会の日常活動を知っていただく中でボランティアにも繋がっていく方法を探ることとする。



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒 182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254
(E-mail) pole2club@polepoleclub.jp、(HP) <https://polepoleclub.jp/>
(本 部) 〒 107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103